

# 風のよう

甘木教会



© Can Stock Photo - csp2073447

主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

ヨハネによる福音書20：27

## 【説教要旨】

今の世界状況を見ると私たちの今までの価値観、行動方向観とはまったく違う価値観、方向に動いています。私の歩んで来た価値観とは違い、軋轢があります。私たちは戸惑い、今日が、明日がどうなるのだろうかという不安感でいっぱいではないでしょうか。

自分らの日々の歩みに、確かなものがなく、自分の生き方、国の進み方を信じられない苦しみということは強く伝わってきます。まさに、暗闇に閉じ込められた弟子のようです。イエスさまの復活後、これでもか、これでもかといわんばかり復活したイエスは現れてきます。しかし、弟子たちは、信じる事ができないでいました。信じるということは容易ではありません。信じようとして自分の知識、体験からすれば、事実、イエスさまが復活の姿をあらわされても、信じる事が出来ない。信じられないという弟子の苦しみあることも事実であり、信じたい、でもの繰り返しでした。イエスさまは信じられないことで、苦しんでいる弟子を理解されていました。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」とイエスさまは、トマスに言われます。それはトマスでなく私たちに言われているのではないのでしょうか。「信じる者」になること、それが

私たちであるということです。今、トマスの前に立たれているイエス・キリストを信じるのです。

イエスさまは「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。」とイエスさまの復活を信じないトマスに言われます。十字架の出来事をトマスに、また私たちに呼び起させるのです。罪人を愛そうとされた神は、愛するがゆえに愛に値しない私たちを信じようと闘った。その闘いの苦しみをイエス・キリストが全てを負ってくださいました。ここに神の救いが、愛が示され、ここに私たちの救いが、慰めがある十字架にかかってくださったイエス・キリストであり、トマスにイエス・キリストに触れさせるのです。つまり神の愛に触れさせるのです。

だから、イエスさまは、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」と言われるのです。

私たちが信じるものは十字架におかかりになってまで私たちを救ってくださる神の愛を信じるのです。私たちは愛されているということを信じるのです。神の愛がイエス・キリストによって、与えられる、ここに信じるということが起きるのです。

信じるというのは頭の中で何かを理解して自分が納得するから信じるということではなく、「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。」という出来事、愛の出来事に触れ、ここに信じるということが起きるのです。

弟子たちが、あなたが裏切ろうと弟子を、あなたを最後まで愛してくださり、信じてくださる方がいるということを伝えたいのです。

八木重吉という詩人は次のように詩います。

イエスを信じること/それを一番の楽しみにしたい

ひとりでに力が出てくる位たのしみたい

この詩人のようにトマスは、信じることにより、神の愛に触れることによって、イエスを信じること/それを一番の楽しみにしたい ひとりでに力が出てくる位たのしみたいと変えられて

いくのです。

彼はインド（南西部のケララ州（ケララのマラバル海岸）に伝道に行った。南インドのトマス教会は、古くからトマスが設立したことが知られている。）にキリスト教を伝えました。彼は人を、また己の目、手、頭を信じるのではなく、キリストの愛を信じたとき「ひとりでに力が出てくる位たのしみたい」という思いに満たされ、伝道へと旅立てたのです。

トマスも、私たちも一生を主・イエス・キリストを信じきれるかという自信はありません。私たちもトマスのように、「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」と見ずしては



信じることの出来ないという心貧しい私たちの人生の歩みの中に「イエスが来て真ん中に立ち」とあるように、いつも将来何回も私たちの「真ん中に立って」くださいます。生ける主は、どんな障害も乗り越えて、私たちの真ん中に立って愛をもたらししてください。

それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。」

なんと滑稽なことでしょうか。なんとユーモアなことでしょう。イエスさまはトマスを責めるというよりもこれでもか、これでもかと私たちに復活されたお姿を示してください。イエス・キリストがじっと私たちの前に立ってください、私たちを見てくださっています。

「病氣して/いろいろと自分の体が不安でたまらなくなると/どうしても怖ろしくて寝つかれない/しかしまいに/キリストが枕元にたって/じっと私をみていてくださるとおもうたので/やっと落ち付いて眠りについた」と八木重吉さんは詠います。今日も「イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。」という平安が私たちの中に与えられるのです。

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



ロシアのウクライナ侵略、中国の覇権主義、アメリカの帝国主義による侵略行為に私たちは、恐怖をもっていないだろうか。私たちキリスト教徒は、プーチンさん、トランプさんを支持できるだろうか。出来ない。私たちはキリスト教とは何だと自分自身を問わなければいけない。主・イエス・キリストが復活されたとき、キリスト教会を見たとき、どう振る舞うだろうか。

「イエスはわたしたちにいのちと平和をお与えになるために、死を通られました。「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのでない」(ヨハネ 14, 27)。イエスがわたしたちに与えてくださる平和は、単に武器を鎮めるだけの平和ではなく、わたしたち一人ひとりの心に触れ、心を変える平和です。キリストの平和へと回心しましょう。心から湧き上がる平和への叫びを、世界に届けましょう。……………」

この祝祭の日、争い、支配、権力へのあらゆる欲望を捨て、戦争によって荒廃し、悪を前に無力を感じさせる、憎しみと無関心が広がるこの世界に、主がご自身の平和を与えてくださるよう祈り求めましょう。苦しみを抱え、主だけが与えることができる平和を待ち望むすべての人を主に託しましょう。主を信頼し、主に心を開きましょう。主だけが、万物を新しくすることがおできになるのです(参照 黙示録 21, 5)。主のご復活のお喜びを申し上げます。」

(「復活祭 2026 : 教皇レオ 14 世によるメッセージ」による。)

## 園長・瞑想？迷走記



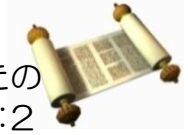
昨年、死へ至るかもしれないほどの高熱が続く大病をして、日々、死を意識しつつ園児と暮らした。

高熱の日々の中で、今を生き、未来へ生きる子どもらが良い幼児教育、保育を受けて、元気に歩いていくことを心から願い、寄り添っていく教諭・保育者が幼児教育・保育の質を深めて子どもと一緒に楽しい日々を過ごして欲しい。

相応しい本を見つけ、本を保育者・教諭に配る事に行っている。(正直、出費は痛いですが、もうそれがどうしたと居直っている) 今年、読書会を開きたいと計画している。

## 日毎の糧

聖書：主に申します。「あなたはわたしの主。あなたのほかにわたしの幸いはありません。」 詩編16:2



### ルターの言葉から

私たちが頼るべきは、ただ主のみです。主は私たちの力であり、私たちのうちにすべてをなしてくださいます。それ

『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社

### 隅の親石

3篇から41篇の「ダビデの詩篇」に属するが、本文の破損があり、解釈が難しいとされている。①

全体的に見るならば、ヤーウェへの信頼と讚美の詩篇であると言える。「神のもとで、神を前にして、神と共に歩むとき、人は豊かな喜びと平安に満たされる。これが詠い手の確信であり、本詩を貫く信仰であった。」このような信仰それ自体はヤハウエ宗教の一般的特徴を示すのであって本詩に限られた訳ではない。」②

一般的特徴はキリスト教に繋がっていくし、旧約の根本モーセの十戒にも繋がっていく。

「新約聖書においてパウロが『主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思う』と極限しているのと（ピリピ3：8）その根本において相通じるものがあると称して誤りではないであろう。またヤーウェへの信頼が、それをもって最上善とする、ということは『汝 我の外何ものも神とすべからず』と命じたモーセの十戒の根本精神がこの詩の中に美しく豊かに歌われているのをわれわれは見る事ができる。」③

信仰者の生涯は、主への信頼につきる。神のもとで、神を前にして、神と共に歩むとき、人は豊かな喜びと平安に満たされる。これが詠い手の確信であり、本詩を貫く信仰こそが生きる希望へと私たちは走り出す。

①新共同訳 旧約聖書注解Ⅱ 太田道子 日本基督教団出版局

②詩編の思想と信仰Ⅱ 月本照男 新教出版

③詩編 浅野順一 岩波新書

祈り：主への信頼によって歩めますように。アーメン。

## 甘木通信

人間にとって最も良いのは、飲み食いし、自分の  
労苦によって魂を満足させること。しかし、それも  
わたしの見たところでは、神の手からいただくもの。

コヘレト2：24



教会の人と松崎保育園職員で、イースター礼拝後に食事会  
をした。チラシ寿司をメインにして、それは豪華な美味しい  
食事であった。

食材を提供してくださる方、教会女性会を中心とし食事の  
準備をしてくださる方。前日の食事の準備の光景だけでも見  
ていると、「今日は幸せ」という気持ちにさせられた。

当日、教会の人、松崎保育職員、園児の保護者と一緒に食  
事は、「神の手からいただくもの」であって、肉の糧にとどま  
らず、霊の糧もいただいた。

小友先生の「人生は短いのです。限りがあるのです。けれ  
ども、限られているからこそ、束の間であるからこそ、意味  
があるのだと、コヘレトは逆説的に教えてくれています。飲  
み食いを賛美する言葉は、決して享楽主義から出たものでは  
ありません。そのことに気づけば、飲み食いというごく日常  
的な小さな幸せは『神の賜物』であり、至福の喜びだとい  
うことが分かるでしょう。」①という言葉をいつも教会で食事会  
をするたびに感じている。

人生は束の間だから、ごく普通の食事を一緒に食べられる  
というこそ束の間の貴重なものであり、神の賜物だと実感し  
ている。

①「それでも生きる コヘレトの言葉」 小友聡 NHK出版

(甘木日記)土) 松崎保育園の入園式。甘木教会へ。皆さんはイースターの  
準備。有難い。日) イースター。早朝礼拝、イースター子ども礼拝、卵探  
し、礼拝、愛餐会后、久留米教会の役員会。月) 幼稚園の仕事開始。火)  
始級式。みんな、どんな気持ちかな。水) 職員の休みが多い中で無事に子  
どもたちと過ごせた。先生方に感謝。入園式の準備。木) 松崎保育園の  
イースター礼拝。イースターの話は難しい。甘木教会のつつじは美し  
い。久留米に引き返す。松崎、甘木、久留米とみんなに助けられて動け  
ている、感謝。金) 雨のなかであったが、入園式を無事に終わる。

**おまけ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）最後の断食日。松崎保育園の入園式。幼稚園と違い3歳児以下の子どもとその保育者。必然的に礼拝説教の話も短く。午後から新学期にむけての「キリスト教保育—多文化保育」について話す。他の文化背景をもっている園児が入ってくる。どう多文化の中で園児に寄り添っていくかということが緊急課題となっている。一緒に家内と甘木教会へ。家内は、教会の信徒さんと



（信徒さんが玉ねぎで染めて作ったイースター卵）

イースターの準備で。私は聖週間礼拝の一週間と金曜日から断食、主日の準備で丸く縮こまって動かない。日）早朝礼拝、こどもイースター礼拝、礼拝、

（子どもと卵探し）松崎保育園職員就任式、愛餐会、久留米教会・役員会、幼稚園委員会とバタバタと動いている。これも私のイースター。孫が洗礼を受けたと聞く。これで三代目のクリスチャンが二人。二つの子どもの家族、孫が教会につながっていることは安心。月）少々、疲れていたがホームセンターに行き、花を見ると元気にされていく。花は良い。しようと思っても体が一步動かない。やっとエンジンがかかり夜中の作業となる。気づくと2時を越す。火）7時半まで幼稚園に行かなければならないからコンビニによって、おにぎりを購入して幼稚園に。進級式。入園式へむけての職員会議。水）朝、入園児の為に購入した花を礼拝堂の横に植える。一つの花壇には春の花、キンギョソウ、一つの花壇は夏の花、インパチェンス。そんな季節。可愛い花壇が出来る。礼拝、子どもたちも落ち着いて讚美し、祈り、み言葉に聞く。事務作業をしつつ、先週の受難節の礼拝、イースターと教会の仕事も休むことなく動いているので、いつのまにかこっくりこっくり。今日は休みの先生も多く少ない先生体制で無事に終了。入園式の準備も完了。今日も7時半から18時まで園にいた。ホット。木）松崎保育園の職員への聖書の話、イースター礼拝。

使徒トマスの話とイースター卵についてお話。午後から甘木教会、花壇、芝生の草を抜いているとつつじの美しさに見惚れる。久留米・日善幼稚園へ。羽村幼稚園のzoom会議。18時越えて職員に車で送られて帰宅。感謝。よく動き、よく働く自分に感心。同時に多くの人に支えられている。金）



雷も鳴る朝を迎えた。日善幼稚園入園式はどうなるか心配していたが、段々と曇り空になり、無事に式も終わる。これから楽しく、毎日を子どもらと過ごしたいと祈っている。今週も満たされた日々であった。